

2007年(平成19) 9月

カルメル
霊性センターニュース



224号

「自分が食べることのない果物の木を子孫のために植える」

カルメル会 中川 博道

過日、神学校の恩師との会話の中で、師は「日本の教会はまだ10年近くは落ち込み続ける」とおっしゃいました。カトリック教会は、その歴史の中で大きな公会議後50年余り、それまでの体制が崩れていく過程を経験してきたこと、そして崩れ去った中から、何度も飛躍的な発展を遂げてきたことを指摘なさいました。ただし、「この残された10年余りを第2バチカン公会議の精神を学びなおしながら、教会の本質を探り続ける努力をしていかなければ、文字通り教会は瓦解してしまうでしょう」ともおっしゃいました。以来、自分の中で様々な見直しが迫られ始めました。

カルメル修道会は、2003年、アピラの総会において「本質的なものからの再出発」を採択し、本質的なものを究めながら、カルメル会が現代において主から問われていることをあらためて問い直し始めました。しかし、私の中には、自分がまだ元気うちに新たな世界が始まるかのような安易なイメージを持っていたような気がします。しかし、師のお言葉は私を真顔にさせます。自分が生きている間に“日の目を見る”的な幻想は捨てるべきではないかと。いつの間にか、今の日本社会の非常に安易なあり方、すなわち未来を食いつぶしながら、今の自分たちを維持するという発想を見直す必要に迫られます。今の教会が、“今の自分たちの納得を求めて生きる”という発想の見直しです。

聖書世界において“約束の地への脱出の歩み”を始めたモーセはその地に入ることはありませんでした。しかし、新しい約束の地に入るために、エジプトを脱出することも、40年余りの荒れ野の彷徨も必要でした。この彷徨の中で、イスラエルの民は契約を得、生きる道しるべ（十戒）を受け、民族としての決定的な基礎を作りあげていく事になりました。しかし、エジプトを旅立った人々は誰一人約束の地に入ることはありませんでした。

昔の人々の生き方に、自分が食べることのない果物の木を子孫のために植えて育てるといふ生き方がありました。

今こそカトリック教会は、キリストの福音の本質を見極め、次世代の人々が、生き生きと主と出会い、約束の地への一步を歩みだしていける場へと、教会のあり方を整え準備していく覚悟のようなものが問われているように思えます。取りも直さず、それが今、私たちが生きる主と共に、生き生きと生きていくことになるはずです。

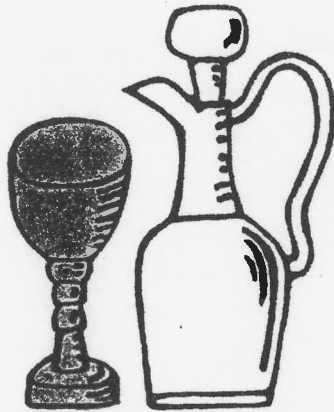
「見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。

初めからのことを思い起こす者はない。

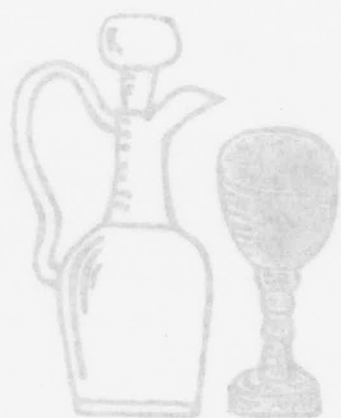
それはだれの心にも上ることはない。

わたしはエルサレムを喜びとし、わたしの民を喜びとする。」(イザヤ 65:17~19 参照)

心の泉



泉の心



幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd

——現代の十字架の聖ヨハネ——

帰天40周年にあたって (9)



神、

わたしは 神ご自身に達したい
その内的いのちにおいて
神に達したい

わたしは 神を望む

神ご自身を

わたしは 神のいのちの中に沈み
神の子という

わたしの身分を実現したい

——幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd

マリー・エウジェンヌ師は「わたしの使命は人々を神へ導くことである」と言っていました。「わたしは神についての知識だけでは、充たされない。どんなに深い知識であっても・・・」。師のうちに息づいていたのはアヴィラのテレサの魂の叫び「わたしは神をみたい」でした。それは神についての知識欲ではありません、神への真の渇きでした。この熱烈な渇きは師をして全身全霊を尽くして神に向かわせました。神はその献身に応えられ、神との一致へと師を導かれたのです。

マリー・エウジェンヌ師は、神との一致へのこの道は決して修道者や特定の人たちのためではない、洗礼によって三位一体の交わりの中に入れられたすべての人のためであると常に強調していました。しかし、そのためにはおん父と「子」としての関わりを信仰のうちに、日常生活において深めてゆかねばなりません。「アッバ父よ」とおん父に呼びかける幼子の心を常にもち、おん父との親しさを平凡な日常性の中で深めてゆくことの大切さを説いていました。特に祈りにおいて。偉大なことをする必要はなく、自分の弱さ・貧しさを受け入れるなら、そこにおん父の慈しみの愛を輝きだすことになると。とかく物事を人間的まなざしで見、評価し、判断して、日々一喜一憂するわたしたちが常に思い出していたい真理です。

わたしは、神のいのちの中に沈み、神の子というわたしの身分を実現したい。

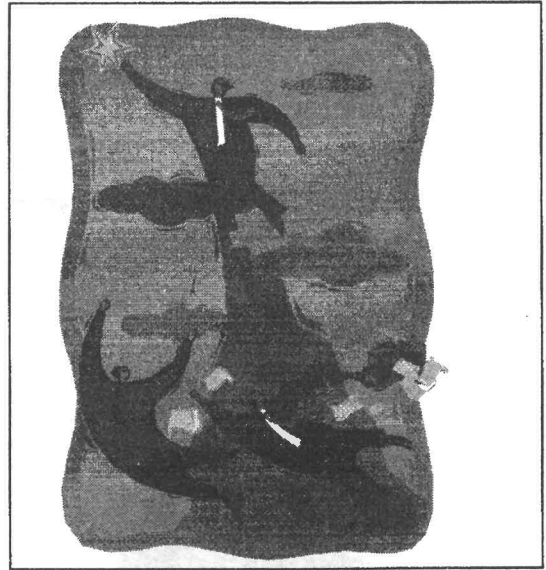
伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

ヘンリ・ナーウエンの

『旅路の糧』

(102)



終わりの時を生きること

私たちは終わりの時を生きています。このことは、世界はまもなく終わりを迎えるということではなく、イエスが指摘した終わりの時のしるしがすべて、すでに私たちと共にあるということの意味しています。すなわち、戦争や暴動、民と民、国と国の間の争い、地震やペストや飢饉、そして迫害などです（ルカ 21：9～12 参照）。イエスは、これらの出来事を、この世界が私たちの最終的な住みかではなく、人の子が私たちに完全な自由をもたらすためにやってくる告知として描写しています。「このようなことが起こり始めたら、身を起こして頭を上げなさい。あなたがたの解放の時が近いからだ」（ルカ 21：28）。私たちの周りで起こる悲惨な出来事は、私たちの最終的解放を準備する手段として生きられるべきなのです。

(0909)

証しの機会

イエスは私たちに現在の時をいかに生きるべきか教えてくれます。彼は私たちの現在の時を終わりの時と、すなわちイエスや神の国のために証しする無数の機会を与えてくれる時と同一視します。私たちの世界の多くの災害、毎日人々の上に起こるすべての悲劇は、私たちが容易に絶望へと導き、私たちが出来事の悲しい被害者であることを確信させます。けれどもイエスはこれらの出来事を、根本的に異なった仕方で眺めています。彼はそれらを証しの機会と呼んでいるのです。

イエスは私たちがこの世に属していないことを思い起こさせます。私たちは、神の無条件の愛の生きた証し人であるようこの世へ送られたのです。この世の存在のはかない現実を越えて、私たちに約束されている永遠の命へ目を向けるよう、すべての人々に呼びかけながら。

(0910)

くわりの
九里 彰訳

『必要なことは、ただ一つだけ』(27)

ルドルフ・V・デ・スーザ OCD (カルメル会)

外的諸感覚

それらの本質によって、外的諸感覚はそれぞれの対象に向かいます。たとえば、目を開けば、何かが見えます。手では絶えず何かに触れます。舌に置かれたものなら何であれ、それらを味わいます。神秘家や聖人たちは、究極的にまことの聖性や祈りの状態へと人々を導く、外的諸感覚からの「離脱」に関していろいろと述べています。「離脱」に関する彼らの主張は、感覚的経験からの全面的な疎遠を意味するのでしょうか。そうではありません。離脱とは、感覚の教育、訓練、方向づけのことです。感覚は与えられれば与えられるほど、より欲求するという本質的な傾向を持っています。「離脱」は私たちの感覚を正しい仕方、正しい方向へと向けることです。それに対し、執着とは何かにしがみつくことで、決してその「何か」を超越することを許さないことです。離脱は、世界や人々との、最終的には神とのより深い関係に「気づくようになる」ことでもあります。これが、目覚めです。それは、浄化の過程であり、究極的に私たちを欲求からの自由へと導くのです。他方、執着は、私たちがもっと物を持たねばならないこと、もっと人をコントロールしなくてはということ、私たちに信じ込ませるのです。それゆえ、執着は、より高次の意識や、目覚めて変容された生き方に対して障害となるのです。結局、離脱は私たちの感覚の教育となるのです。

神秘家の言っていること

すべての神秘家は、五つの外的感覚があり、それを通して私たちが内的旅路を歩むことに同意しています。私たちはどのようにして私たちの感覚を教育できるのでしょうか。ここに二三ヒントがあります。私たちの感覚が本当の祈りへの道を準備するよう、感覚を教育する必要な手段について語っている十字架の聖ヨハネの言葉を引用します。

今それぞれの感覚機能について、その例をあげることにしよう。耳を楽ませることのできるすべてのことから、それに対する楽しみを奪いってしまうなら、靈魂はいわば、この機能に関しては暗く空虚な状態になる。また目を喜ばせることのできるすべてのものから、その楽しみを取り去れば、同じく、この機能に関しては、靈魂は暗黒で空虚な状態になる。鼻が楽しむことのできる快い香りをまったく失うことになれば、やはり同じく靈魂は、この機能に

については暗く、空虚な状態になる。また口を楽しませることのできるすべての食物の楽しみをなくすれば、やはり同じく靈魂は暗く空虚となる。最後に触れることについても同じで、それが受け取ることができる快感と満足すべてをなくすれば、靈魂はこの感覚に関して、暗く空虚になる。つまり、以上の事柄における欲望を克服して、その楽しみをしりぞけ、それから離れてしまうならば、すべてが暗く、何もなくなってしまう夜のようなものとなるということが出来る。

『カルメル山登攀』第1部3章2節)

この後退の目的は、より高いゴール、すなわち神との一致を目指すことにあります。ヨハネは諸能力を、それらの機能を剥奪することによって、空にすることを勧めているのではありません。それは、神がそれらを満たすことができるように空にすることなのです。なぜなら「神はさまざまなことで一杯になった心にはふさわしくない」(『愛の生ける炎』3, 48) からです。

旅

祈りの生活における第一の段階、あるいはあなたがそれを望むならばですが、靈的生活は、人が想像しているように、見ないこと、味わわないこと、聞かないこと、触れないことを学ぶことではありません。そうではなく、なさなければならぬことは、見ること、味わうこと、聞くこと等の誤ったやり方に気づき、正しい仕方を身につけることです。たとえば、美的な体験や芸術作品の創造や鑑賞において、心の意識は最も高い最も完全な状態を達成することができるのです。芸術は、自分自身を見出すことと失うことを同時に可能とします。詩や絵や音楽作品や被造物の中に隠れている知的で靈的な価値に反応する心は、それらを超えて究極の現実へと引き上げる靈的な活力を見出すのです。この種の心の高揚は、私たちの感覚のさまざまな体験を通して生じ得るのです。

さらに、私たちは単に、物質的な事柄から逃避することによって、あるいは非人間的な否定や容赦のない苦行によって、聖なる者となることはできません。必要とされることは、私たちの感覚を、生活の中で神の方へと方向づける訓練をすることです。健全な靈的生活を営むこととは、その全体において靈的な生活です。身体の活動が靈魂のゆえに聖なるものとなり、靈魂がその中に住み働いている神のゆえに聖なるものとなるような生活です。

(続く)

く^{のり}九里 彰訳

「その人たちはお返しができないから、あなたは幸いだ」(路10, 42)。

「ルカによる福音」では、食事、あるいは宴会の場面が、イエスの宣教活動に重要な意味を持っています。罪人たちと共に食事されることが、神の国福音の本質の一端を示しているように、今日の福音では、「イエスは食事のためにファリサイ派のある議員の家にお入りになった」、ファリサイ派の人や議員たち、当時の支配階級に属する人々とも食事を共にされた、ここにも、神の国の秘儀が示されています。

さて、今日の福音を、わたしたちはどのように聞いているのでしょうか。確かに、イエスは言われます。「婚宴に招待されたら、上席に着いてはならない」と。なぜなら、もっと身分の高い人が招かれていて、その人に席を譲るように言われるかもしれない、そうすれば、恥をかくことになる。末席に座っていれば、もっと上席に進んでくださいと言われ、衆人の目の前に面目を施すことになる。これは、ファリサイ人たち以上に、わたしたち日本人の発想、価値基準にピンとくるのではありませんか。では、イエスは、この日本的価値観を、神の国の基準として宣言されるのでしょうか。いいえ、そうではありません。イエスは、わたしたち日本人にも、既存の価値基準を超えた神の国の福音の喜びに回心するように、招いておられます。

「宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。その人たちはお返しができないから、あなたは幸いだ。正しい者たちが復活するとき、あなたは報われる。」わたしたちが示した好意と同じレベルでのお返しではなく、もっと崇高なレベルでのお返しが、貧しい人の側に立っておられるイエスの御父から与えられるのです。「正しい者たちが復活するとき、あなたは報われる」、しかし、その復活の時とは、遥かに遠い将来の時だけを指していません。今日の時、地上の命の時でもあるのです。御父の憐れみ、無償の愛、そして、その受肉であるイエスの憐れみに参与させていただき、その喜びの中に今日の命を生きる、この命の中で一步でも御父の愛に向けて成長させていただき、この成長を楽しませていただけるのです。この喜びは、わたしたちが、復活に連なるキリスト教的悟りの中に今日を生きている証しではないでしょうか。

ルカ 渡辺幹夫

年間第23主日(C)

「自分の十字架を背負って、わたしの後について来る者でなければ、わたしの弟子となることはできない」 (ルカ9:51~62)

この福音のことがを通して、イエスに従っていかうと思っている者は誰でもこのキリストの教えに心を留めるべきです。キリストは、私たちの生活の中にあるいちばん大切なもの、親戚の絆とか、自分自身の生命そのものとかを愛してはいけなとおっしゃっているではありません。王国への献身は絶対的でなければならないのですから、どんな人間関係もそれを妨げてはならないとおっしゃっているのです。十字架を受けるために聖なる都のほうへ進みながら、キリストは御父から受けている神秘的な使命の重大さを私たちに示してくださっています。私たちが本当にキリストに従っていく者であるならば、彼の十字架を担ってキリストについていかなければならないのです。キリストに従っていかうとする気持ちが中途半端なものであってはならないとこの二つの比喩は伝えています。どんなに重要に思われるものでもキリストに対する献身の気持ちを失わせることのないように、私たちは自分の決心の意味を十分に考え合わせなければなりません。私たちは、最後まで進んでやりとげる心がまえがなければなりません。そうでなければ、私たちの状態は、半分完成した建物がその人の愚かさを表す記念碑となった者のようになってしまうでしょう。或いは、更に悪いことには、洞察力が足りないために敗北と死に追いやられる王のようでもありましょう。主が求めておられるのは、私たちの人生の献身において、自分にとっていちばん大切なものを全部主の御手に委ねること、主が私たちに求められるものは何でも喜んで受け取ることです。

福音に献身し、福音に献身し続けるには、私たちを助けてくださる神の智慧を必要とします。私たちは有限な人間であり、私たちの力には限りがあります。たとえば、若い科学者は現代科学の功績を誇りに思い、「私たちは、鳥のように飛ぶことができる、私たちは鳥がすることは何でもできる」といいました。でも、鳥のように有刺鉄線の上にとまることはできません。ああ！私たちは人間ですから、私たちの力は限られ、物理的にさえ何でもできるというわけにはいきません。霊的にはどうでしょうか。私たちは、地上にあるものを計算することもむずかしいのです。では、誰が天国にあるものを発見できるのでしょうか。ですから、私たちは神の智慧を祈り求める必要があります。神の恩寵に助けられて、私たちはキリストに真剣に従っていく者となることができます。

(Sr. Paulina)

「言うておくが、このように、悔い改める一人の罪びとについては、…大きな喜びが天にある」(肋15, 7)。

徴税人や罪人が、話を聞こうとしてイエスに近寄ってきた。すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」、と不平を言いだした。そこで、イエスは、「見失った羊」、「なくした銀貨」、そして「放蕩息子」の有名な三つのイメージを活用して「たとえ」を話されたのです。これらのたとえ話は、罪人を悔い改めに招くためであることに間違いはないのですが、ここで問題視される罪とは、一体なんのでしょうか。これらの三つのたとえ話を読んでゆきますと、徐々に明らかになってくることは、わたしたちが神について持っているイメージとイエスが語る神の真実の姿との間には、大きな隔たりがあることではないでしょうか。罪からの悔い改めと言うよりは、神の真のイメージへの悔い改めが、問題なのです。

ファリサイ派の人々や律法学者たちは、神のイメージを持っており、そのイメージに誠実に対応する者であろうと自分たちも努力し、他の人たちにも要求しています。確かに、彼らが心に抱いていた神のイメージは、旧約聖書の中で体験した御自分を啓示される神の像に根源を持っていたでしょう。がしかし、この体験を人間が自分の言語で表現し、また他の人たちに伝えようとする時には、人間の知性の限界、人間の善悪の判断の基準の中に変形、矮小化されたものとならざるを得ないのです。このようにして、人間は、神に誠実であろうと努力しつつも、神の姿を曇らせ、神から離れ、むしろ、自分好みの偶像に造り変えているのではないのでしょうか。

神のイメージを、自分の好み、利害、理解力の枠内に収めようとして変形する、どうも、罪の根源にあるものは、このわたしたちの傾向です。そして、こうして造り上げたイメージに従って自他の行動、生き方を載っているのではないのでしょうか。人間は、生きている限り、つまり、死の壁を超えて神を直観するその日まで、自分が造った神のイメージを超えて行くように、つまり、真の神に悔い改め続けるように、いろいろな出来事、また、人との出会いを通して、招かれています。「超えて行け、越えて行け、彼岸に行く者よ、越えて行け。」

ルカ 渡辺幹夫

年間第25主日

「ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である；
ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である。」

(ルカ 16 : 1~13)

賢明さはいつの時代に於いても大切なもの、宝です。というのは賢明であれば私たちは最高の未来を得ることができるからです。私たちの最高の未来は天の国にあります。私たちは、天の国は善のみが存在する所で善の欠如である悪が一つも無い所だと信じています。ですから一般常識が自然的なこの世の生き方に適合していくのに対し、賢明さは私たちを天的な生き方に順応させようとしています。

今日の福音でイエスは、たとえ話の管理人が自分の将来に心配ばりをしている以上にもっと私たちが自分の未来に心配りをするように要請されます。この管理人は他人に対し有利に計らうことによって自分の将来を安泰なものにしますがこれは彼の主人を欺く行為となります。ここでイエスはこの管理人をその不正直さではなく彼の将来への心遣いを良しと褒められます。この管理人は自分の将来を見通すことが出来る人です。自分の行った不正のためにやがて解雇されることを予想します。そこで解雇される前に他人に彼への負いを負わせ、解雇された時に彼らが管理人の命令に従わざるを得ないようにします。こうして管理人は彼の将来を見通しそれに備えたのです。もし私たちの未来が天の国にあるならば私たちは皆積極的にそのことを心に留めて生活しなければなりません。

では、いつからその様な心配りを始めるべきなのでしょう？ 死者の復活の後から？ とんでもないことです。それは現在をないがしろにして未来を懸念することになります。私たちの未来は今この時から始まっています。現在の積み重ねが未来です。今日という一日の中でも明日への歩みが始まっています。イエスが述べておられるもう一つの大切な勧告は「ごく小さな事に忠実な者は大きな事にも忠実である」

(ルカ 16 : 10) ということです。小さな一滴の水、小さな一粒の砂が集まって大洋となる様に私たちの日々の小さな善い行いの一つひとつは人生の偉大な実りとなるのです。又、私たちが日々の生活の中で小さな機会を有効に使うことは天の国での大きな報いを決定します。小さな親切、ちょっとしたやさしい言葉、心から人を赦すことを大切にして日々過ごすならば私たちは愛、一致、平和の王国である天の国での未来を作り上げていく義務を果たしていくこととなります。そうです。天的な意向をもって成された最も小さな事、どんな小さな行為も無限の永遠のものに変えられるのです。このようはわけで小さな事に忠実であることは意味深く大きなことなのです。

(Sr. Paulina)

「もし、モーセと預言者に耳を傾けないのなら、たとえ死者の中から生き返る者があっても、その言うことを聞き入れはしないだろう」(16, 31)。

この福音を読んで思い起こすのは、オウム真理教の麻原彰晃こと松本智津夫のことです。彼が、殺人容認の教義を始めて説いたとされるのは、八十七年一月の説法においてであると言われています。「最終解脱者」を名乗る彼は、そこで、「今、地獄に行って帰ってきた」と宣言しています。そして、追従者たちはその話に大きな衝撃を受けています。小さなうそはすぐにばれるが、誰も検証のできないほど巨大な虚構、人々の検証能力を遥かに超えるうそなら、それはかえって崇高な真実に見えてくる、これが人間の心理なのでしょう。究極の真理と言われるものの前には、地上の日常生活は、取るに足らないもの、何の価値もない、犠牲にしてもかまわないものと見えてくるのでしょうか。

しかし、イエスの注目は、まっすぐに、地上に生きている人、金持ちに向けられます。神から豊かに恵まれた富、自由に処理できるものとして与えられた地上の財で、この金持ちは、どのような生き方をしたのでしょうか。毎日贅沢に遊び暮らす、自分の刹那的享楽を追い求める生活でした。それだけならまだしも、決定的なことは、与えられた豊かさを他者の幸福ために活用する、このような展望が欠落していた、むしろ、豊かさのために隣人が見えなくなっていた。貧しいのは、神の祝福から切り離されているしるしだ、とさえ思っていた。このたとえ話は、ファリサイ人たちに、熱心に神のみ言葉、旧約聖書を読み、その真意を把握していると思い、その解釈を教師として教えていた人々に向けられています。イエスは、ファリサイ派の人々の思い描いている、父である神の姿、また、この神とのわたしたち人間の関り、そして、地上の生活の現実、また、共に今日を生きる隣人への眼差しを、いってみれば、宗教的生活全般を、そうではないと否定しているのです。イエスが教える真実な宗教的生活への改心、悔い改めを呼びかけておられるのです。

「モーセと預言者」、つまり、全聖書の教えの中心は、天国の報いでも、地獄の威嚇でもない、この地上の生の中で、ご自分を小さい人に現す神の喜びを共有することへの招きにあります。

ルカ 渡辺幹夫

…ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

18. 福者十字架上のイエスのマリア (1846-1878) — その2

マリアム・バウアルディは1846年、ガリレアのアペリンに生まれた。彼女の一家は、レバノン人でギリシャ・メルキ派のカトリック教徒であった。マリアムは幼い頃から、苦行と謙遜に心をひかれ、聖母マリアに対する深い信心を持っていた。彼女の生涯は、聖体に対する深い渴望に特徴づけられる。その望みのため、彼女は許可を得る前に初聖体を受けてしまい、その瞬間、彼女はイエスがこの上なく美しい幼子の姿でご自分自身を彼女にお与えになるのを見たのである。13歳のとき、叔父の一人と婚約させられたが、結婚式の前夜、心の中で「すべては過ぎ去る！ もしあなたが、自分の心を私に与えることを望むなら、わたしはいつもあなたとともにとどまるであろう」という声を聞いた。彼女はその声に応えて、貞潔を守る意思を示すため、長いお下げ髪を切り落とし、奴隷扱いされるようになった。ある日、彼女は一家の友人であるイスラム教徒を介して、弟に手紙を送る決意をした。その人物は、彼女がイスラム教徒に改宗することを要求し、彼女が拒むと、三日月鎌で彼女ののどを深く切りつけ、血の海の中に彼女を取り残したまま去ってしまったが、聖母マリアが現れて看護してくださり、そのおかげで彼女は健康を回復したのであった。

1870年、ポーのカルメル会に入会する。その修道生活全体に、超自然的恵みが目立っている。1873年から1874年にかけて、8度、恍惚状態で空中に引き上げられた。聖痕も受け、それは強く甘美な芳香を放っていた。心臓は貫かれ、ご出現や、実際に実現した預言を度々受けている。マリアムは神秘的知識を有し、同時に二箇所にいることさえあった。また詩の才能にも恵まれ、それは彼女が学校教育を受けていないことを考えれば驚くべきものである。福者マリアはインドのマンガロールにも赴いたが、その後ポーに戻る。この「小さなアラブ人」はベトレヘムの修道院を創立し、1878年に亡くなった。



福者十字架上のイエスのマリア

— 祈り —

私は、全ての大地を招きます。あなたをほめたたえ、あなたに仕えるために。
いつも、とこしえに、終わることなく！ あなたの愛と私の心は一つになりました。
私は、すべての海を招きます。あなたをほめたたえ、あなたに仕えるために。
いつも、とこしえに、終わることなく！
私は呼び、招きました、空を飛び小鳥たちを。あなたをほめたたえ、あなたに仕えるために。
いつも、とこしえに、終わることなく！
私は呼び、招きました。明の星を。いつも、とこしえに、終わることなく！
私の愛するお方、そうです、私には彼の声が聞こえます。彼はすぐそばにおられます。
進んで行きましょう！
いつも、とこしえに、終わることなく！
おお、彼を覆い隠す幕よ、開いてください、私は彼を、愛するお方を見たいのです、
礼拝し、お愛しするために。
いつも、とこしえに、終わることなく！ 彼の愛と私の心は一つになりました。
私は呼び、招きました。恩知らずの人類を。あなたをほめたたえ、あなたに仕え、あなたを賛美し、あなたを愛するために。いつも、とこしえに、終わることなく！

私の愛する母であるマリアさまの足もとで、私は命を取り戻しました。
おお、苦しんでいるすべての人々よ、マリアさまのもとに来てください。
マリアさまの足もとで、私は命を取り戻したのです。
おお、この修道院で働く皆さん、あなたがたの歩みと働きを、
マリアさまは数えておられます。
自分に言い聞かせてください、マリアさまの足もとで私が命を取り戻したことを。
この修道院で暮らす皆さん、世の物から心を引き離してください。
あなたがたの救いと命はマリアさまの足もとにあるのです。
私は、母の心の中に住み、そこで私の愛するお方を見出します。
それなら私は孤児でしょうか。マリアさまのふところ、私は命を見出したのです。
私が孤児だとは言わないでください。
私は、母としてマリアさまを、父として神さまをいただいているのです。
悪魔が私をとらえ、私の命を奪いたいと望んでいました。
でも、私はマリアさまの足もとで命を回復したのです。
マリアさまは私をお招きになりました。ですから、この修道院に
私は永遠にとどまります。
マリアさまの足もとで、私は命を取り戻したのですから。

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列17:3-4)」ということばに由来しています。

(泰阜カルメル会訳・編)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話(6)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

かえる 蛙 (2)

時々、料理係のカタリーナ姉妹は台所から、キャベツや月桂樹の葉やパセリや粗末なほうれん草を取りに庭へ出ました。

彼女は貯水池の脇を通らねばなりませんでした。日に当たり、楽しんでいた蛙たちは、カタリーナのほんのかすかな足音を聞くやいなや、パシジャンと池の中に飛び込み、水の中にもぐってしまいました。かわいそうな修道女はがっかりして、自分が蛙たちに決して害を加えないこと、修道院では日光浴をしている蛙たちの足は食べないことを説明しようとしていました。でもカタリーナの努力は、まったく無駄でした。

ベアスの修道女の聴罪司祭は、その頃、他ならぬ十字架の聖ヨハネでした。

或る日、カタリーナ姉妹は、聴罪司祭がとても賢く、鹿やカモシカや鳩や狐やライオンや小鳥やキジバトなどの動物のことに詳しいことを知り、彼の所へやってきて、たずねました。

「神父さま、わたしが庭へ出て、わたしと分かると、なぜ蛙たちはすぐに逃げて、池の底に隠れてしまうのでしょうか」。

「娘よ、それは、そこが彼らにとって一番安全な場所だからですよ」と、ヨハネ修士は答えました。

「ああ、ほんとうですね」とカタリーナは言いました。

聴罪司祭は、冗談や金言を言う機会を忘れずに、こう付け加えました。

「そう、そうしなくてはいけないのですよ、カタリーナ姉妹。靈魂をそこない、害を与える被造物から逃げること、神がおられる靈魂の底、靈魂の中心へもぐり、その中に隠れ、非難することですよ」。

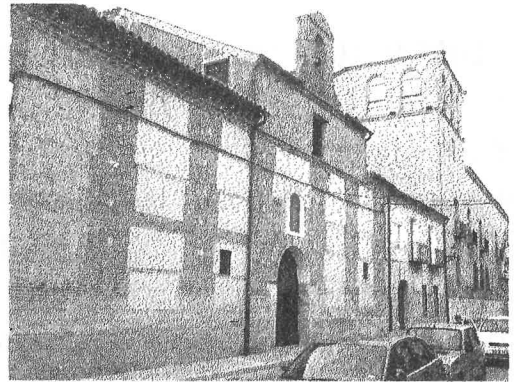
その後、聖人がベアスの修道女たちに手紙を書いた折、カタリーナ姉妹に、あの時言ったように、ひと言付け加えるのを忘れませんでした。「そしてカタリーナ姉妹へ、自分を隠し、底へ降りて行くように」と。

姉妹は聴罪司祭によって書き記されたこの教えを決して忘れませんでした。それに忘れることもできなかつたのです。なぜならいつもあの蛙たちから同じ教えを受け取っていたからです。(続)

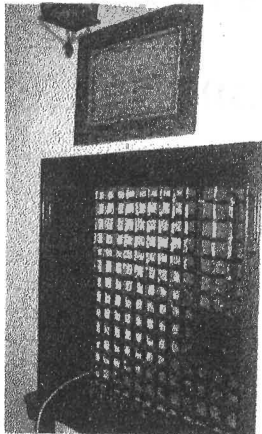
スペイン紀行（2007年）No.2

（メディナ・デル・カンポ）

スペインの首都マドリードから西北西へ
車で2時間ぐらい走ったところに、また、
サラマンカから北へ車で1時間走ったと
ころに、メディナ・デル・カンポという町
がある。この町は、昔のカスティーリャ・イ
レオン地方の交通の要所であった。ここか
ら北へ車で30分ぐらい走ったところに、



バリャドリッドというカスティーリャ・イ
レオンの首都があるが、現在は、この
メディナ・デル・カンポもバリャドリッド地方の一部に属している。この町は歴
史的にも重要な町でもある。なぜならば、スペインの歴史の中で、重要人物の一
人であるカスティーリャ女王イサベル（カトリック女王・1451～1504）が亡く
なったといわれるモタ城があるからである。その娘、ホアナ1世女王も1年間軟
禁された場所でもある。ここに、アヴィラの聖テレジアが、第二の修道院創立を
行った。1567年8月15日のことだった。しかし修道院としての機能を持つまで
には、数ヶ月かかった。聖女が、そこに滞在している最中に、一人の若いカルメ
ル会士が女子修道院を訪問した。この人物が、後の十字架の聖ヨハネである。聖
女と聖人の最初の出会いである。その場所が、下の写真の場所である。当時、テ
レジアは男子修道会にお創立を考えていた。ヨハネ（当時はマティアのヨハネ修
士）はカルトジオ会へ移る考えを持っていた。テレジアは、彼と話して思いとど
まらせて、新しい男子修道院を創立する援助を願い、ヨハネも承諾したのである
（創立史3・17参照）。 実は、十字架の聖ヨハネは、アヴィラから遠くない村



フォンティベッコで生まれ育った後、1551年からこの町、
メディナ・デル・カンポで移りすみ、この町にあったカル
メル修道院の門を叩き、カルメル会に入会したのであ
った。彼が育った家庭は貧しかったが、この町にあった
イエズス会の学校で学んだり、アウグスチノ女子修道会
の聖堂では、侍者としての奉仕もしていたのであった。
この町は、幼少の十字架の聖ヨハネのゆかりのある場所
でもある。この二人の聖人の最初の出会いが、後の跣足
カルメル修道会の発端にもなったのである。

（Fr. 松田浩一 OCD）

跣足カルメル修道会会員の列福ニュース

2007年10月28日にローマで、跣足カルメル修道会会員の列福式が行われます。対象となる会員は、1936年にスペインのトレドの修道院にいた16人のスペイン修道者たちです。当時、スペインは内戦が始まり（スペイン市民戦争 1936年～1939年）、政治的、思想的に混乱期にありました。その中で、教会に反発するグループにより、多くの聖職者・修道者が殺されました。その中に跣足カルメル修道会の会員も含まれています。すでに、このときの殺された聖職者・修道者の何人かは列福されていますが、今回、このトレドの修道院の修道者たちが列福されることになりました。

この16人の修道者たちの構成は次のようになっています。5人の司祭、8人の司祭職を目指す神学生、3人の修道士たちです。

16人のうち14人は、トレドの町で殺され、2人はトレドの郊外で殺されました。16人の名前は以下のとおりです。

1. Padre EUSEBIO DEL NIÑO JESUS(+ 1936.7.22)
2. Fray JOSE AGUSTÍN DEL SANTISIMO SACRAMENTO (+ 1936.7.22)
3. Fray HERMILO DE SAN ELISAO (+ 1936.7.22)
4. Fray ELISEO DE JESUS CRUCIFICADO (+ 1936.7.22)
5. Fray PERFECTO DE LA VIRGEN DEL CARMEN (+ 1936.7.22)
6. Fray CLEMENTE DE LOS SAGRADOS CORAZONES (+ 1936.7.22)
7. Fray CONSTANCIO DE SAN JOSE (+ 1936.7.30)
8. Fray JOSE MARIA DE LA VIRGEN DOLOROSA (+ 1936.7.30)
9. Padre NAZARIO DE LOS SAGRADOS CORAZONES (+ 1936.7.31)
10. Padre PEDRO JOSE DE LOS SAGRADOS CORAZONES DE JESUS Y MARIA (+ 1936.7.31)
11. Padre ROMON DE LA VIRGEN DEL CARMEN (+ 1936.7.31)
12. Fray MELCHOR DEL NIÑO JESUS (+ 1936.7.31)
13. Fray FELIX DE LA VIRGEN DEL CARMEN (+ 1936.7.31)
14. Fray PLACIDO DEL NIÑO JESUS (+ 1936.7.31)
15. Fray DANIEL DE LA PASION (+ 1936.7.31)
16. Padre TIRSO DE JESUS MARIA (+ 1936.9.7)

注・2.3.4.5.7.12.13.14 は神学生、6.8.15 は修道士

Carmelitas Descalzas



バベルの塔 現代版

修道院3階の窓から西方を眺めると、晴天の日には、小さな町並みが続くその遠く向こうに、山頂に残雪をいただく富士山がドーンと雄大に居座って聳えているのが見えます。その途端、小学生時代に覚えた唱歌、「頭を雲の上に出し、四方の山を見下ろして、雷さまを下に聞く、富士は日本一の山」を口ずさみたくなってきます。その均整のとれた円錐形、背景の空の群青色、そして山頂の白雪との美しい調和などなど……それこそいつまで見ても見飽きない山ですし、またそこから気品が流れてくるのを感じます。……ところが、いつまでもその感覚に浸ってはいられない雰囲気があるのです。というのは、つい前景に目を取られてしまうからなのかもしれません。前景とは、つまりその手前に林立する高層ビルの群団です。ニョキニョキと、いつの間にか建ってしまったビル群、それらはきっと人々の住宅のビルでしょう。都心なら、ホテルとか企業の会社とか……が考えられますが、平地も少なくなり人間が増加してくると、居住所を高く積み上げるのは、まさに人間の知恵の素晴らしさだと思います。但し夜になると、空飛ぶ飛行機の運航に危険なので、屋上にはいくつもの赤色燈がとまり、美的に見ようとすれば美しいとも言えますが、まさに現代の夜景の空だなあ と思います。そういえば今から十数年前に、アメリカでほんとうに飛行機が高層ビルに突入し、大変な惨事が起こった……あの事件がマザマザと脳裏にひらめいてきます。敷地面積が狭くても高さでいけば、その代替になるとか…… それもよく分かるのですが、私にとっては、人間のすることは、生活便利が最優先であり、あとはどうなってもいい、とまでは言わなくても、自然との調和については時々忘れられているのではないのでしょうか。そこで連想されるのが旧約の「バベルの塔」の話です。建設目的は「人間が天までとどく町を造り、自画自賛したかった」というあの話です。神はこれをお望みにならなかったので、人間同士の言葉に混乱を起こさせ、建設工事半ばで、その継続を不可能にさせてしまいました。つまり神以上になりたい、という傲慢を思いとどませたのでした。現代版のビルの林立、それは人間の傲慢の結果ではなく、人間生活の必要性から生じた結果とは思いますが。しかし環境破壊、静寂と自然美の喪失。それに代わって人間至上主義と便利主義に捕らわれ、無意識のうちに大自然の中の、目に見えない雄大で繊細な神の働きと姿を見失ってしまっているのではないのでしょうか？ それにつけても信仰上で「神」というときには、固定化した観念的概念ではなく、私たちが日常、肌で体験する一つ一つの“コト”の中に、神ご自身と、その働きを実感して、神と出会っていくことが大切なのではないかと思うこの頃です。

お告げのフランシスコ姉妹会 Sr. 熊田 照子

まっすぐ歩く

教会の帰りに、駅で電車を待っていました。

プラットホームには、石のタイルが敷き詰めてあります。わたしは、電車を待っている間、退屈しのぎに、まっすぐに並んだ石のタイルの上を歩いてみました。皆さんは、まっすぐに歩けますか？モデルさんなどが、美しくまっすぐ歩くことができますよね。

わたしも、モデルさんがするように、右足と左足の足跡が一直線になるような歩き方で、プラットホームの敷石の上を歩いてみようとしたのですが、すぐにふらふらして、つい両手をペンギンのようにパタパタさせてしまいます。

でも、そのうち、両手を、十字架に架けられるかのように左右に開くと、バランスが取れて、まっすぐ歩きやすいということに気づきました。そしてふと、こんなことを思いました。

『人生でも、そうかもしれない……』

人生を、神様に向かって、まっすぐ歩いていく為には、苦しみという十字架が必要なのだなあと思ったのです。

人生では、色々と、苦しいこともありますよね。弱いわたしは、あっちにつっかえ、こっちで転び、まっすぐに歩けないことが多いです。でも、本当は、苦しみこそが、まっすぐ神に向かって歩けるように、わたしの心の両手、祈る両手のバランスを取ってくれる、十字架なのかもしれません。そして、広げられた両手には、きっと小さなイエス様が、抱きしめてもらおうと、飛びっきりの笑顔で、ちょこちょこ走って来るような気がします。

そんなことを思っているうちに、電車が来ました。丸山知佳子

今 ここに新聞の切り抜きがあります。

大分以前のもので、正確な日付は分からないのですが、後生大事にずっと持っているのです。

1997年 神戸で児童連続殺傷という社会を震撼させた事件がありました。加害者が14歳の少年であったことが、大きく問題となり、報道も戦慄して熱を帯び、私達は少年Aという名称で加害者を知ることとなります。年月を経て、少年Aは22歳の時に社会復帰をしています。この事件で、当時10歳の山下彩花ちゃんという少女が、痛ましくも殺害されました。彩花ちゃんの母 山下京子さんが、少年Aの社会復帰に際して、手記を公表し、その主旨が新聞紙上に掲載されたのですが、私はそれを切り抜きお守りのように大切にしてお手元に置いているのです。

手記のなかで、山下京子さんは「加害男性が私達と同じ社会に生きていくことを思うと、事件から今日までの様々な事が胸を去来し、複雑さが倍増しています。」と述べ、加害男性の更生、また病気の完治への疑問をしるし、彼が社会人として真っ当な人生を歩めるのかと疑います。しかし、法務省が加害男性の社会復帰を認め、太鼓判を押した以上それを信じるしかないといえます。そしてここで山下さんは加害男性から、2通の手紙を受け取ったことを明かします。

「1通目の手紙は、劇的に私の気持ちを揺るがすものではありませんでした。事件の核心に触れるものでもありませんでした。」しかし、「2通目の手紙は、人から強制されて書いたものではなく、彼の本心を吐露したという感じがあり、出会ったこともない彼の声を聴いているようで、読み進めるうちに私は涙を流していました。」「その涙の意味は自分でも理解できないのですが、憎悪や恨みという種類のものでなく、もっと静かな、ただただ寂しいというものでした。」

私は、ここにきて何かとてつもないものに触れて、心おののきました。私信として内容は公表されていないので、彼の手紙の何が山下さんの内に触れたのか分かりません。しかし、ここには愛するわが子を殺した加害者と同じ地平に立ち、同じ人間としての彼の声を聴くことができる被害者 母がい

る。それは、もはやあらゆる理念、条件、憎しみ等々・・全てを失い、手放して、空っぽで、全身が静かなただの哀しい涙に覆われている。私は動転し、うろたえ打ちのめされ、無意識にこうべを垂れて、十字をきりました。

愛する者を殺害されて、殺した相手に向かって「お前も死ね！私が殺してやる！」と心底叫ぶ用意がなくして、結婚したり、子供を育てたりは出来ないと思っています。しかしながら、もしかしたら、本当にもしかしたら、山下京子さんの、この静かなただ哀しい涙を流せないなら、本当には人を愛することは出来ないのではないかと、今 心震えるのです。

ただただ哀しい涙の前に、どれほどの苦痛、苦悩、葛藤が立ちはだかったのか、余りにも果てしなく量り知ることが出来ませんが、私は初めて人間同士がゆるすということの兆しを、目の当たりにしたという思いでいます。

ゆるすとは、心うつ美談などでなく、信仰の意識すらなく、そのままただただ哀しく静かに涙を流しつつ、人と生まれた悲惨と栄光をこの身に受けとることなのだと、深く深く思い知ったのです。

山下さんは、彼の罪を許したわけではないが、彼の悪に怯えるよりも、わずかでも残る善を信じたい。彩花への謝罪は、私達が生涯背負う重さを共にし、私達の痛みを共有する事しかない。どうすれば痛みを共有出来るかを探すのは彼自身だ。社会でもう一度生きたいと決心したのなら人間を放棄しないで、絶望から蘇生してほしい。善を引き出せる人と出会ってほしい。と手記を結んでいます。

因みに彩花ちゃんのお父さんは、加害男性の手紙を読んでいないと聞きました。父としての苦悩、母としての苦悩の必然のあり方を感じて、深く首肯するばかりです。あらためて母という「産む性」に思いを致し、今 一層の哀しさが深まります。

私はこれからも、幾度もこの新聞の切り抜きを、手にとることでしょう。

いのちの言葉 8月

イエスを見つめながら、自分に定められている競争を
忍耐強く走り抜こうではありませんか。

(ヘブライ12・1-2 参照)

「ヘブライ人への手紙」は、試練と苦しみの中に生きるキリスト者に向けて書かれたものです。人は試練に遭うと、「もっと易しい道を選ぼうか」「もう無理だ」と思うこともあるでしょう。

しかし「ヘブライ人への手紙」は、歩み始めた道を前進するよう、キリスト者を招いています。それは困難で苦勞の伴うことですが、「福音の道」は豊かな命へと私たちを導くものです。手紙の中では、苦しみの重荷を感じても、しっかり踏みとどまって走り続けるよう、キリスト者への励ましの言葉が記されています。

運動選手の場合と同様、イエスに従おうと決めた私たち一人一人も、目標に到達するには、忍耐強さや持久力が必要です。しかし、神が共にいてくださることを確信し、イエスに従う決意を堅く持つなら、それができるでしょう。

そして私たちが何よりも生きよう招かれているのは、すでにこの道を進まれ、私たちを導いてくださるイエスをしっかりと見つめることです。実際、十字架上のイエス、特に御父から見捨てられた瞬間のイエスは、勇気と忍耐の模範です。イエスは、試練の中でも揺らぐことなく、ご自分をお見捨てになったかのような神の御手に、再び自らをお委ねになりました¹。

イエスを見つめながら、自分に定められている競争を忍耐強く走り抜こうではありませんか。

屈することなく勇気をもって、最大の試練に立ち向かわれたイエスについて、キアラ・ルービックは、しばしば語っています。彼は、私たちの歩みの模範であり、試練を乗り越える上でのお手本です。イエスは十字架上で見捨てられた時、私たちの味わう苦しみや人生の試練のすべてを経験されたからです。

では、このイエスをしっかり見つめて生きるには、どうすればいいでしょう。キアラは次のように語っています。

「私たちは恐れを抱くことがあります。しかしイエスも、十字架上で見捨てられた時、御父から忘れ去られたという『恐れ』に襲われたかのようなではありませんか。

私たちが落胆と失望を感じる時も、見捨てられたイエスを見つめることができます。彼は受難の中で、御父からの慰めを感じられず、苦しみに満ちた試練を生き抜くための勇気を失ったかのようなからです。

また私たちは方向性を失い、どうすればいいかわからない状況に置かれることもあります。イエスも見捨てられた苦しみのどん底で、自分に何が起きているのかわからなくなり、『なぜ』と叫ばれました。

がっかりしたり、傷つけられたり、思いがけぬ不幸に見舞われたり、病気になったり、不合理な状況に陥ったりする時、私たちはいつも見捨てられたイエスの苦しみを思い起こすことができます。彼は、こうしたすべての試練や他のあらゆる苦しみをご自分のものとされたからです。」²

私たちがどんな困難の中にあっても、イエスは傍らにいて、すべての苦しみを私た

¹ マタイ 15・34 参照

² 「In cammino col risorto」(復活のキリストと共に歩む)(ローマ 1994年) P148-149

ちと共に分かち合ってください。

イエスを見つめながら、自分に定められている競争を忍耐強く走り抜こうではありませんか。

このみ言葉をどのように生きることができのでしょうか。イエスをみつめ、「生活の中で試練に出遭うたびに、それを見捨てられたイエスの名で呼んでみましょう。たとえば『孤独という見捨てられたイエス』『疑いという見捨てられたイエス』『傷という見捨てられたイエス』『試練という見捨てられたイエス』『苦悩という見捨てられたイエス』と。

このように彼の名で呼ぶことにより、私たちはすべての苦しみの背後にイエスを見出すことができ、イエスはさらなる大きな愛で、私たちに応えてくださるでしょう。このイエスを抱きしめるなら、彼は私たちの平和、慰め、勇気、バランス、健康、勝利となってくくださるでしょう。彼がすべてを説き明かし、すべてを解決してくくださるでしょう。」³

イエスを見つめながら、自分に定められている競争を忍耐強く走り抜こうではありませんか。

数年前に、この「いのちの言葉」の解説に出会ったルイジーナの体験をご紹介します。彼女はこう語ってくれました。

「突然、恐ろしい知らせが届きました。29歳の長男が交通事故に遭い、重態だということです。私は胸が張り裂ける思いで、病院に駆けつけました。意識不明で横たわっている息子を見た私は、絶望に陥りました。苦悩の中で時が過ぎていったある日、ふと病院の聖堂に立ち寄った私は、いのちの言葉の紙を見つけました。見捨てられたイエスを見つめるように招く、その言葉を注意深く読みながら、『これはまさに私の試練のことだ』と思いました。

もはや何の希望もない集中治療室が、私

の目には『殉教の場』ではなく、『神の愛につながる場』として映りました。私を残して逝こうとしている息子の手を取り、彼のために祈ることができました。息子は死を迎えましたが、彼が『生きている』とこんなに感じたことはありませんでした。」

ファビオ・チャルディ神父
ガブリエラ・ファラカラ
(2007.8)

★ いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

ある朝、同僚が出勤後まもなく気分が悪いと言い、意識を失い倒れました。その日は私しか事務所にいなくて、救急車を呼び、同乗し彼に付き添って病院に行くことになりました。救急車を待つ間同僚の奥さんに連絡すると「かかりつけの病院があるのでそこをお願いします」とのことでした。救急車の職員の方に、奥さんの指定した病院をお願いしたところ、「遠すぎるので、最寄の救急病院に連れて行きます」とのことでした。意識を取り戻した同僚に了解を得て、そこで手当てを受けていると、やがて到着した奥さんは私を見るや否や「あなたは私が頼んだ病院に行ってくれなかった」と硬い表情で言いました。一瞬、私は自分の耳を疑い、愕然とし、「今まで私がやったことは何だったんだろう？」と思いました。その時、見捨てられたイエスを思い出し、彼を抱きしめました。「“愕然”という名のイエス」との出会いでした。病院から戻る途中、私の心は平和に満たされており、数日後、奥さんに手紙を書きましたが、返事はありませんでした。数ヶ月後、たまたま私たちの職場を訪れた彼女は、何もなかったかのように私に接し、私も自由な心で彼女を迎えられたことに喜びを感じました。

(長崎 M)

連絡先

フォコラーレ: 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyofocfem@ybb.ne.jp

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

³ 注2と同 p149



苦しきも虚しさもまた優しさも千情蔵む病とい
ふ字

つつがなき今日と思へり夕窓の折鶴らんに水注
ぎつつ

かなかなかなかなかなかな
悲悲悲哀哀と啼きはなつひぐらしの居り残照
の中

去る七月九日帰天された密本延枝さまの句集「オルゴール」より



カルメル会の企画案内



内案画金の会々々々



上野毛靈性センター '07年9月～'08年3月

A 黙想企画 ** 聖テレジア修道院(黙想) **

1. 聖書深読(毎回土曜日 夕食～日曜日16時)

12月15日～16日 九里彰師

08/ 2月23日～24日 九里彰師

一日聖書深読(毎回土曜日午前10時～午後4時)

10月13日 九里彰師

11月17日 九里彰師

08/ 1月12日 九里彰師

3月15日 九里彰師

2. 奉獻生活者のための黙想会

12月26日(水) 夕食～08/1月4日(金) 朝 福田正範師

3. 木曜黙想会 一般黙想(毎回木曜日10時～16時)

10月25日 あなたの信仰が、あなたを救った 福田正範師

12月20日 お言葉どおり、この身に成りますように 九里彰師

08/ 1月31日 主よ、助けてください 福田正範師

2月28日 見えない者は、見えるようになる 九里彰師

3月27日 あなた方に平和があるように 福田正範師

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人(毎週金曜日10時～16時)

~~9月21日 アザラウの聖テレジアの説く「従順」九里彰師~~ ←中止します

10月5日 リジューの聖テレジアが生きた「祈り」 九里彰師

11月2日 自分に死に、あなたに生きんことを 福田正範師

12月7日 三位一体のエリザベットの示す「天国」 九里彰師

08/ 2月8日 御復活のラウレンシオ 福田正範師

5. 青年黙想会(男女) 九里彰師 神学生

11月23日(金) 15時受付～24日(土) 16時

6. 召命黙想会（男女） 九里彰師

11月 9日（金）20時～11日（日）・・・（9日は夕食を済ませてご参加ください）

7. 大祭日のミサに与かるために

【クリスマス】・・・チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時

12月24日（月）～25日（火）《講話なし、夕食なし》

【聖週間を祈る】チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。

08/ 3月20日（木）～23日（日）《講話なし、各食事つき》

8. 特別黙想会 伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）夕食を済ませてご参加ください。

【私は神を見たい】・・・祈り

10月26日（金）20時 ～ 28日（日）15時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願いします。（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院（黙想）

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

B カルメル靈性研究クラス (九里 彰神父)

- * 十字架の聖ヨハネ『愛の生ける炎』
 - 10月3日 第三の歌 (1から18まで)
 - 10月31日 第三の歌 (19から42まで)
 - 11月14日 第三の歌 (43から62まで)
- * アヴィラの聖テレジア『創立史』
 - 10月17日 第17章～第19章
 - 11月7日 第20章～第22章
 - 11月28日 第23章～第25章

どちらも水曜日夜7:15～8:45まで。テキストを少しずつ読み、解説と分かち合いがあります。随時参加もOKです。上野毛教会信徒会館2階26号室。無料。

C 念禱の集い (九里 彰神父)

- 10月26日 「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」
- 11月30日 「あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる。」

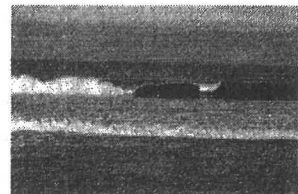
毎月一回金曜夜7:15分より。上野毛聖テレジア修道院(黙想)小聖堂。都合の悪い場合は、上野毛教会信徒会館ホールで。無料。

- 7:15 始めの祈り
み言葉と講話
念禱
- 8:40 終りの祈り

D 東西靈性研究クラス (九里 彰神父)

カルメルの靈性を通して、広く諸宗教の靈性を学ぶクラスです。

- * 毎月第二金曜日(午後7:15～8:45)信徒会館26号室。無料。
- * 第5回 10月12日 『老子』上編第1章～第10章
講談社学術文庫(金谷治訳注)を使用します。
- * 発表者:九里
- * 各回とも、参加者に順番でリポーターを勤めて頂きます。その後、分かち合い。
- * 問い合わせ: 加藤和彦 TEL(03)3418-6816
E-mail tokyo@carmel-monastery.jp
- * 第6回 11月16日 『老子』上編第11章～第20章
- * 第7回 12月14日 『老子』上編第21章～第30章



C.Y.C.(カルメル・ユース・クラブ)

キリスト者青年の集い

悲しみの聖母

9月15日は十字架称賛の祝日ですが、その翌日は「悲しみの聖母」の記念日です。マリアさまは、キリストの受難の時、十字架のもとにたたずみ、母として苦しみを共にしたからです。聖母の悲しみの意味について、共に祈り分かち合いましょう。

日 時 : 9月23日(日) 13:30~16:30
対 象 : 18歳以上 35歳までの 青年男女
スタッフ : カルメル会士
場 所 : カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)
東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩5分



プログラム

13:30~	受付開始
13:45~	始めの祈り
14:00~14:45	講話
14:45~15:00	念祷、マリア様の連祷 (その後、休憩)
15:10~16:00	分かち合い 終わりの祈り
16:00~16:30	茶話会
16:30	解散

その他

☆ 事前の申込みは不要ですので、お気軽にお越し下さい。お問い合わせに関しましては FAX または E-mail に、住所、氏名、年齢をお書きいただき、下記までお送り下さい。

☆ 10月以降、年内のC.Y.C.の日程は、10/28(日)、11/25(日)、12/23(日)です。

カルメル修道会 カルメル・ユース・クラブ(C.Y.C.)係 (神学生:古川)

[Fax] 03-3704-1764 [E-mail] tokyo@carmel-monastery.jp

(〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25 Tel 03-3704-2171)

‘07年9月～’08年3月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

宇治聖テレジア修道院(黙想)

1. 聖書深読

一泊二日 (午後5時～午後4時)

	9月15日(土)～16日(日)	カルメル会士
	11月17日(土)～18日(日)	渡辺幹夫神父
08/	1月12日(土)～13日(日)	渡辺幹夫神父
	3月 8日(土)～ 9日(日)	新井延和神父

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

	9月19日 エディットシュタイン	渡辺幹夫神父
	10月17日 アピラの聖テレジア	アロイジオ神父
	11月14日 日常の聖性	中川博道神父
	12月12日 十字架の聖ヨハネ	新井延和神父
08/	1月16日 新しくなる	渡辺幹夫神父
	2月20日 聖書の祈り	新井延和神父
	3月12日 主の受難	カルメロ神父

3. 四旬節黙想 (午後5時～午後4時)

08/ 2月9日(土)～2月10日(日) カルメロ神父

4. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

12月1日(土)～12月2日(日) 渡辺幹夫神父

5. 聖テレズの黙想 (午後5時から午後4時まで)

9月30日(日)～10月1日(月) 伊従信子 NDV

6. 日曜黙想会 (午前10時～午後4時)

10月 7日 渡辺幹夫神父

7. 奉獻生活者の黙想 (午後5時～午前9時)

	10月20日(土)～10月29日(月)	渡辺幹夫神父
	12月27日(木)～ 1月 5日(土)	カルメロ神父

京 都

8.青年黙想会（午前10時～午後4時）

11月4日（日） カルメル宣教修道女会 中川博道神父

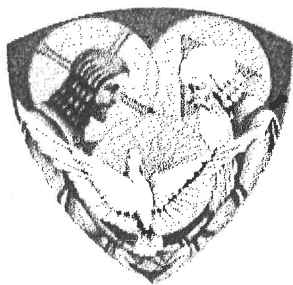
.....

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
TEL 0774-32-7016 FAX 0774-32-7457



-- 聖テレーズの黙想 --

現代社会への福音

「幼子の道」



幼きイエスの聖テレーズと

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師が生きた慈しみ深い神への道



現代は何よりも、無限なものに対する感覚を失って苦しんでいます。

このような世界の中で、幼きイエスの聖テレーズは自分が生きぬいた『幼子の道』を私たちに示します。それは決して生ぬるい道ではなく、神への徹底した信頼に基づく福音そのものです。

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師（カルメル会士）—

持参するもの：『弱さと神の慈しみ』サンパウロ社

『テレーズの祈り』聖母文庫

筆記用具、パジャマ

9月30日（日）午後5時～10月1日（月）午後4時

宇治聖テレジア修道院（黙想）

指導：伊 従 信 子（NDV）

参加費：6,000円

申し込み・お問い合わせ

宇治聖テレジア修道院（黙想）

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

「立ちどまって、ひとりになって、聞いてみよう！」

～都会の中の日静修～（2007）

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかたがでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、「秘跡を生きる」としました。このテーマの中で、秘跡の教義的な側面をベースにし、神との出会いの中で七つの秘跡をどのように受止め、生きることが出来るかを黙想の中で深めていく事ができるようにと願っています。

了 第1回	1月16日(火)	神の現存の体験	松田浩一神父	(上野毛修道院)
了 第2回	2月12日(月)*祝	洗礼・堅信の秘跡	中川博道神父	(宇治修道院)
了 第3回	3月21日(水)*祝	赦しの秘跡	新井延和神父	(宇治修道院)
了 第4回	4月17日(火)	聖体の秘跡	カルメロ神父	(宇治修道院)
了 第5回	5月15日(火)	結婚の秘跡	九里彰神父	(上野毛修道院)
了 第6回	6月19日(火)	叙階の秘跡	渡辺幹夫神父	(宇治修道院)
了 第7回	7月16日(月)*祝	カルメル山の聖母	新井延和神父	(宇治修道院)
第8回	9月11日(火)	幼いイエスの聖テレジアと秘跡	アダミニ神父	(日比野修道院)
第9回	10月16日(火)	アヴィラの聖テレジアと秘跡	Sr.ベアトリス	(宇治修道院)
第10回	11月23日(金)*祝	病者の塗油	ベルナルド神父	(宇治修道院)

* 時間 AM10:00～PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
(駐車場は利用できません。)

* 費用 1,000円

* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

* 定員 約20名

* プログラム
 10:00～ 祈り
 10:40～ 講話【1】
 12:00～12:45 昼食
 12:50～ 赦しの秘跡または短い面接
 13:30～ 講話【2】
 14:45～ ミサ
 15:30～ 茶話会
 16:00～ 終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へI/GがきFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

名古屋カルメル霊性センター—日静修係

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

または、〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115 小林厚 TEL/FAX052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 3 京 都（毎回土曜日）

9月 8日	新井延和神父
10月 6日	P.オハール神父
11月 17日	奥村豊神父
12月 8日	新井延和神父

*日曜日の福音を深く味わい、分かち合い、解読で学びながら福音を深く心に刻む
聖書深読黙想会に、どなたでもご参加ください。

場 所：河原町カトリック会館6階又は7階

費 用：各回2,500円（昼食代を含む）

時 間：午前10時～午後4時 持参品：聖書・筆記用具・ノート
申し込み・問い合わせ（お申し込みは、各回3日前までに）

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル

河原町カトリック会館内 聖書委員会

TEL：075-211-3484 FAX：075-211-3910

4 名古屋聖書深読会

10月 6日（土） 日比野カトリック教会 中川博道神父

- * 毎回事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。
- * 定員21名 申し込みはFAXかハガキでお願いします。
- * コースは深読法を集中的に行う一日コースと全行程を沈黙のうちに黙想しながら1泊2日のコースがあります。
- * 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方ならどなたでもご参加ください。

申し込みは、下記の住所へ、ハガキかFAXで、氏名、住所、TELを記入の上開催の3日前までに必着のこと。キリスト者は所属教会名もご記入ください。

〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 有光信子さんのグループ

- ① 通信・・・参加者は「素読表」（B5あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解説はない。

費用：1回 300円 年 10回 3,000円

- ② ミニ深読（午後2時～4時）毎月第4木曜日（8月はお休み）宇治カルメル会教会

①②とも：〒663-8033 西宮市高木東町 31-20-504 有光信子

TEL/FAX 0798-67-8132

3 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」2007年特集号

「今こそ信徒を切実に招かれるキリストのみ声」

—現代における信徒の靈性—

- 聖書が語る靈性 一人はなぜ「靈性」を必要とするのか …雨宮 慧
世に生きる希望の証し …田畑邦治
旅する教会の途上にて 呼びかけられた覚醒、期される覚生 …大瀬高司
世に遣わされたキリストの姿 一教会公文書に見る信徒の靈性 …九里 彰
世を愛された神と共に世に生きる靈性 …中川博道

雑誌「カルメル」No. 325 (2007年夏号)「今日の靈性」

- * 聖靈の光のもとに 一教父たちの教えと生き方(6) …高橋正行
「あなたがたに平和があるように」
—ヨハネ福音書 20章 19～29節 …九里 彰
- * 祈り(14) …チプリアノ・ボンタッキョ
- * 十字架の聖ヨハネ講話 (7) …フェデリコ・ルイス
愛で生きる(5) …ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット(2) 一信徒の生き方を探る …伊従信子
カルメルの馨り(9) ～ひとり海を渡ったおとめ～
OCD 日本創立に向けた具体的な動き II …大瀬高司
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(17)
—あなたの信仰を信じなさい …伊従信子
- * オウム真理教元信者の手記を読んで …谷口正子
愛の断章(4) …奥村一郎

※ 雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬号+特集号、送料込み)として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替: 00190-4-195457 跣足カルメル修道会

(お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL(03)5706-8356)

待望の再販

『自叙伝』(サンパウロ社)、『創立史』『完徳の道』『靈魂の城』(ドン・ボスコ社)

特別黙想会

《わたしは神をみたい》

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ帰天40周年にあたって—
2007年10月26日（金曜日）午後8時—28日（日曜日）午後3時
祈りとは？ —わたしの愛と神の愛との出会い

神は愛です。神は愛によってわたしたちを創られ、
愛によってわたしたちをあがなわれました。
そして神は、わたしたちがご自身と親密に一致するように
造られました。神との一致を神ご自身が、
最も望んでおられるのです。……
わたしたちの愛と愛である神と出会う、
するとただちにそこには、愛に充ちた交流が成立します。
それが念禱なのです。

『わたしは神をみたい Je Veux Voir Dieu』

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ著より



人それぞれのあらゆる日々の煩わしさを越え、しばらく立ち止まってみませんか？
絶え間ない用事に巻き込まれ、どうしようもなく自分自身の深みで求めているもの
から切り離され、ときには闇がわたしの上に鉛のように重く覆いかぶさってくる。
そのようなことをすべて越えて、自分の深みにもどってみませんか？
愛を見つけ、それに生かされている人のように、無鉄砲な生活から帰った放蕩息子
のように、あるいは「イエスを一目見ようと探す」ザアカイのようにもどってみま
しょう。わたしたちの深奥、存在の深みで「愛」を再発見する、わたしたちが賜物
としていただいた存在の深奥で愛を再び見出すのです。

指導： 伊従 信子（NDV）

持参するもの： 聖書（新約）、筆記用具、パジャマ

その他通常の備品は備えてあります。

参加費用：¥12,000

*26日（当日）は夕食を済ませてから参加下さい。

158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

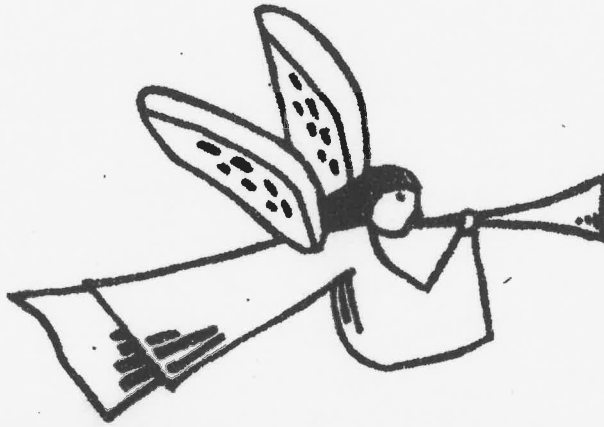
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

Tel 03-5706-7355

Fax 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

諸所の企画案内



CWC企画

心のいほり

リーゼンフーバー神父・キリスト教講座

真命山靈性交流センター

ノートルダム教育修道女会

ノートルダム・ド・ヴィ

内案画金の両齋



画金〇W〇

〇〇〇/J〇〇〇

聖書詩イヌイキ・父軒一ハ一てにサ一し

一サにサ旅交掛靈山命真

会文直謝言焼△サハイ一し

トウ・ヲ・△サハイ一し

諸所の企画案内

【CWC 講話会】

現在は、「聖書深読入門」を行なっています。

講師：九里 彰神父（カルメル会）

日時：原則として第二火曜日（以下のとおりです）

場所：真生会館4階第8会議室 時間：午前10時30分～12時

対象：キリスト教に関心のある方はどなたでも。

連絡先：神藤（CWCスタッフ）TEL（03）3642-5629

2007年

8月9日はお休み。

10月9日（火）

11月13日（火）

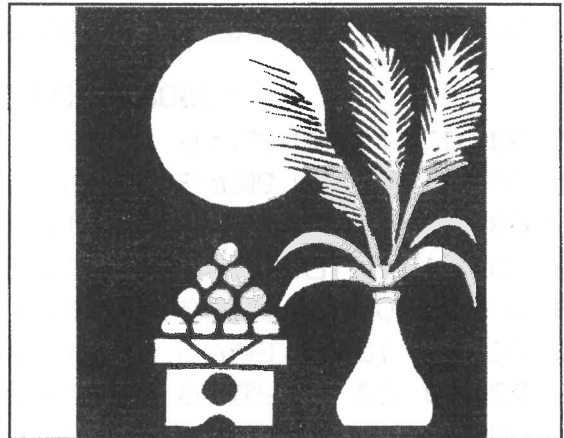
12月11日（火）

2008年

1月15日（火）

2月12日（火）

3月11日（火）



方法

1. まず講師の選んだ聖書箇所を皆で一節ごとに「輪読」。
2. その後、沈黙の内に何度も読み、み言葉を味わう「素読」。
3. 「素読」で受け取ったものを、一節ごと皆で分かち合う「合読」。
他者の発言に対し、一切批評はしない。自分のことのみ発言する。
(無理に発言する必要なし。何も発言しなくてもOK。)
4. 「合読」を受けて、講師がその日の箇所について解説する「解説」。

内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせ下さい。電話では取次いでおりません。
申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」
藤原神父 FAX 072・802・5026

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★ 2007年度 ★

M1	07・05・17 (木)	2時から	05・23 (水)	2時まで	盛岡・白百合・シャルトル	了
K3	07・06・03 (日)	2時から	06・09 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	了
P2	07・06・17 (日)	2時から	06・23 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	了
N1	07・06・26 (火)	2時から	07・02 (月)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	了
Y2	07・07・22 (日)	2時から	07・28 (土)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ	了
P3	07・08・10 (金)	2時から	08・16 (木)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	了
K4	07・09・09 (日)	2時から	09・15 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	
B2	07・10・17 (水)	2時から	10・23 (火)	2時まで	札幌・厚別・ベネディクト	
N2	07・11・02 (金)	2時から	11・08 (木)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	
K5	07・11・11 (日)	2時から	11・17 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	
P4	07・12・03 (月)	2時から	12・09 (日)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	

★ 2008年度(決まっている会場) ★

M1	08・01・11 (金)	2時から	01・17 (木)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K1	08・01・27 (日)	2時から	02・02 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
M2	08・03・10 (月)	2時から	03・16 (日)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K2	08・04・13 (日)	2時から	04・19 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
K3	08・06・01 (日)	2時から	06・07 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
M3	08・09・13 (土)	2時から	09・19 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K4	08・09・28 (日)	2時から	10・04 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
M4	08・11・30 (日)	2時から	12・06 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K5	08・12・09 (火)	2時から	12・15 (月)	2時まで	東京・小金井・聖霊会

一日内観・ミニ内観のご案内

一日内観

★宝塚売布女子ご受難会修道院にて
参加費は1万円

- 了2007年4月28日(土)午後2時から
29日(日)午後4時まで
- ・2008年4月26日(土)午後2時から
27日(日)午後4時まで
- ・2008年6月28日(土)午後2時から
29日(日)午後4時まで

ミニ内観

★沖縄・安里修道院・毎月第一水曜日
10時から3時まで・シスターかな
電話 098・866・8293

- ★東京・神奈川県内観経験者のミニ内観の集い
聖母訪問会・三浦修道院にて
了4月29日(日)了6月10日(日)
問い合わせ 小倉
FAX 045・824・1462

リーゼンフーバー講座・集い案内

2007～2008年

- キリスト教
入門講座 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教
理解講座 毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的としキリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会 木曜日 12時45分～13時25分 上智大学7号館316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで勉強します。
- 坐禅会 ●月曜日 17時20分～20時10分
●木曜日 18時～20時30分
上智大学内クルトウルハイム1階左の部屋。祝日を除く。
3回坐り、間に講話があります。
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。
- 接心 ● 4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時 了
6月22日(金)20時30分～24日(日)13時 了 秋川神真蔵。1泊2400円程度。
8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分 了
10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時 了
2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分 上石神井。5600円程度。
● 5月12日(土)13時～13日(日)16時 了 宝塚市
8月1日(水)17時30分～7日(火)13時 了
- ミサ 水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)
- 黙想 ●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し8月14日は休み。8月28日は上智大学内クルトウルハイム聖堂。
12月25日(火)はクリスマスの黙想(予定)。
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)
●通う聖操 8月18日(土)～8月26日(日) 18時～21時 上智大学内クルトウルハイム聖堂
- 祈りの集い ●下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月14日、5月26日、6月30日、7月14日、8月18日、9月8日、10月13日、11月17日、12月8日、
2008年1月12日、2月2日、3月15日
●ロザリオの祈り 同日16時10分～16時50分 上智大学内クルトウルハイム1階右小聖堂
- 黙想会 5月19日(土)10時～20日(日)15時、9月22日(土)10時～24日(月)14時、12月1日(土)10時～2日(日)15時、
2008年3月8日(土)10時～9日(日)15時、上石神井。1泊5600円程度。
- アガベ会 下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時) 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
~~4月21日(土)、6月16日(土)、10月21日(日)、2008年1月20日(日)~~
- クリスマス会 12月15日(土) 17時～ 聖イグナチオ教会信徒会館ヨセフホール(予定)。要申し込み。
クリスマスのミサ 12月23日(日) 14時～ 上智大学内クルトウルハイム聖堂
- 問い合わせ・
連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部哲学科教授)
〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html
<http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html>

リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座 2007～2008年

日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会 (四ツ谷駅前) 信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

各回のテーマ

- 8/31 イエスの復活—今に生きるイエス —— (上智大学内 Kultourハイム2階)
- 9/7 聖霊—神の愛に導かれる
- 9/14 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わる
- 9/21 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる
- 9/22-24 ●黙想会
- 9/28 教会の成立と意味—イエスを中心に集う
- 10/5 人間としてのイエス—新しい人間像の基礎付け
- 10/12 御子としてのイエス—イエスの神との関係
- 10/19 父と子と聖霊—神の生命に与る
- 10/26 信仰の決断—支えられて生きる
- 11/2 ○休み
- 11/9 ミサ祭儀—神への奉仕と生活の糧
- 11/16 自己実現と神の意志—生き方の規範
- 11/30 人間の弱さ—罪とは何か
- 12/1-2 ●黙想会
- 12/7 恵みとゆるし—神の憐れみを受ける
- 12/14 愛の心—キリスト教の本質
- 12/15 クリスマスのミサとパーティ (教会信徒会館ヨセフホール) (予定)
- 12/21 隣人愛—他人のうちにイエスに出会う
- 12/23 ミサ (14時、上智大学内 Kultourハイム2階)



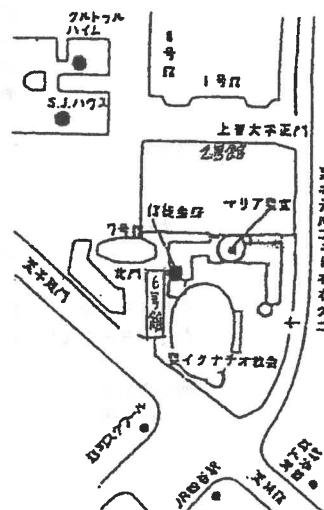
リーゼンフーバー神父 キリスト教理解講座 2007～2008年

日時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会 (四ツ谷駅前) 信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

毎回のテーマ

- 9/4 [根本的態度] 人生を生きる基盤—信頼・信仰・希望
- 9/18 課題の中心—愛による完徳
- 9/22-24 ●黙想会
- 10/2 真理と善の実現—判断・勇気・節制
- 10/16 共同体と社会の建設—共通善・正義・愛
- 10/30 個人の道—聖霊の導きとカリスマ
- 11/6 [日常生活] 対人関係の意義—出会いと協力
- 11/20 身体と生命—性と生命倫理
- 12/1-2 ●黙想会
- 12/4 家庭と独身生活—与えられた道の発見と深化
- 12/15 クリスマスのミサとパーティ (17時、教会信徒会館ヨセフホール) (予定)
- 12/18 仕事と余暇—能力の活性化と人への奉仕
- 12/23 ミサ (14時、上智大学内 Kultourハイム2階)



坐禅会



月曜日 : 17時20分～20時10分

木曜日 : 18時～20時30分

(祝日を除く)

場 所 : 上智大学内クルトゥルハイム1階正面左の部屋
3回坐り、間に講話があります。

初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

接心 2007年度

関東

4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時了

6月22日(金)20時30分～24日(日)13時了

8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分了

10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時

秋川神冥窟

1泊2400円程度

2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分上石神井、5600円

関西

5月12日(土)13時～13日(日)16時 宝塚市 ② 了

8月1日(水)17時30分～7日(火)13時 宝塚市 ① 了

連絡先 ① シスター田中 電話 0797-84-7863

② 岸本 正 電話 078-583-3067

指導と問い合わせ先:

クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス

電話 03-3238-5124(直通)5111(伝言)、FAX 03-3238-5056



黙想へのお誘い

メディテーション

「会社帰りの黙想」

—あわただしい毎日に平安のオアシスを—

月2回、聖イグナチオ教会では黙想の場が開かれます。

リーゼンフーバー神父により、黙想のさまざまな仕方が紹介され、参加者一人ひとりが沈黙のうちに聖書のことばをもとにし、自己を探り静かに考え、祈ることができます。始めと終わりにオルガン演奏もあります。

信仰・宗派を問わず、毎日の忙しさから解放され、夕べのひとつきに心を深めたい方、どなたも歓迎です。随時参加、遅刻可、参加は無料です。初めて黙想なさる方も、お気軽にいらしてください。

日時：毎月第2・第4火曜日 18:45～20:00

但し8月14日休み、8月28日上智大学内クルトゥルハイム聖堂
12月25日(火)クリスマス・メディテーション(予定)

場所：聖イグナチオ教会マリア聖堂(中聖堂)

東京都千代田区麴町6-5 Tel.03-3263-4584
(JR、地下鉄四ッ谷駅から徒歩)

指導司祭プロフィール

クラウス・リーゼンフーバー(Klaus Riesenhuber)

1938年生まれ、1967年来日

イエズス会司祭、哲学・神学博士

元放送大学客員教授

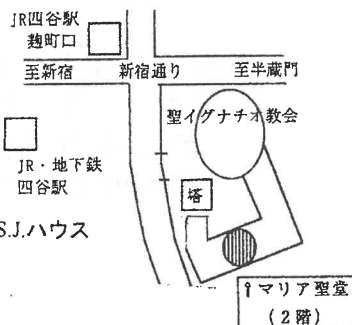
現在、上智大学文学部哲学科教授

連絡先：〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学S.J.ハウス

Tel.03(3238)5124(直通)/5111(伝言)

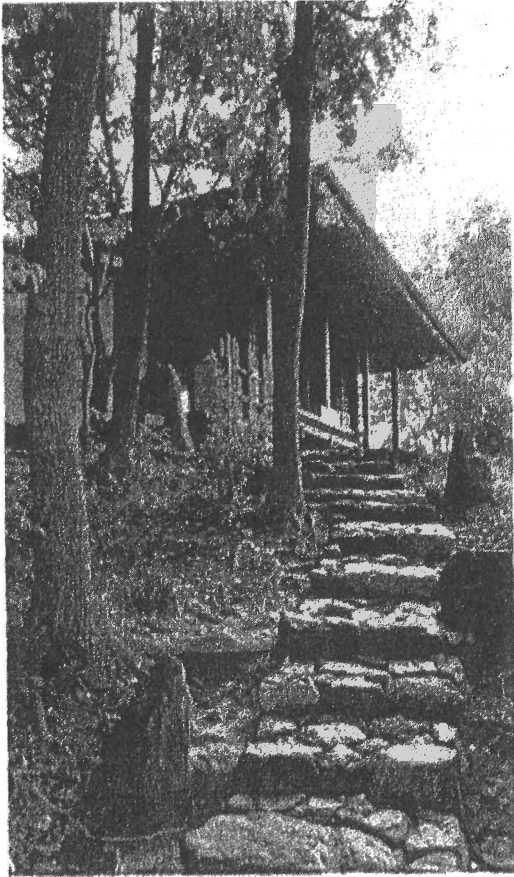
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html

<http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html>



真命山

諸宗教対話・霊性交流センター



真命山の霊性



自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

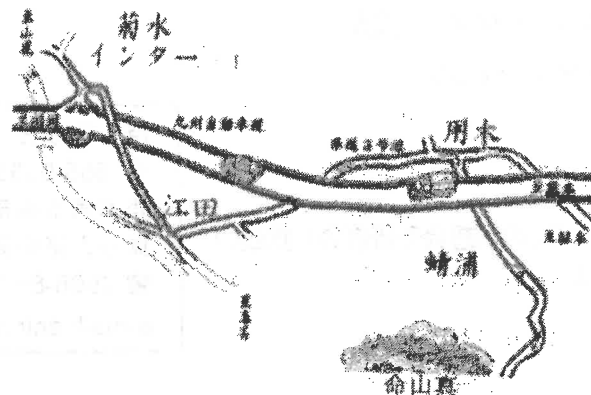
祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり



真命山

2007 年度行事のご案内

祈りの集い (午前10時~午後3時)

年間テーマ「聖ダミアノの十字架のもとで祈る」

- 了 1月11日(木) 聖ダミアノの十字架のもとで祈った
聖フランチスコ
- 了 2月8日(木) 十字架に釘づけられたキリストの体
- 了 3月8日(木) キリストの受難と死
- 了 4月12日(木) 死に勝たれたキリストの姿
- 了 5月10日(木) イエス様の十字架のもとに
立っておられるマリア様
- 了 6月14日(木) 十字架につけられたキリストの御顔
- 了 7月12日(木) " (続き)
- 9月13日(木) 三位一体の栄光を表す十字架
- 10月11日(木) 十字架につけられたキリストを
囲んでいる人々
- 11月8日(木) 十字架を担ってキリストに従う
- 12月13日(木) 十字架と馬小屋

指導者：真命山スタッフ

フランコ・ソットコルノラ神父 (院長)

シスター マリア・デ・ジョルジ

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。(要予約)

申し込み先

〒 865-0133

熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地：〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎1丁目 3-1 (Tel:077-579-7580)

◎ 交通：JR京都駅から湖西線(唐崎)下車。琵琶湖の方へ徒歩約13分

◎ 日程

A. 8日間の個人指導による黙想 (初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終了)

2007年 7月 23日(月)～7月 31日(火) 了

8月 18日(土)～8月 26日(日) 了

9月 1日(土)～9月 9日(日)

B. 週末3日間の個人指導による祈りの体験 (神との親しさの中で日常を生きるために)

5月で 終了

C. 3日間の週末個人黙想 (週末に個人黙想をなさりたい方のために)

2007年 6月 29日(金)～7月 1日(日)了 | 10月 12日(金)～10月 14日(日)

9月 7日(金)～9月 9日(日) | 10月 19日(金)～10月 21日(日)

10月 5日(金)～10月 7日(日) | 11月 2日(金)～11月 4日(日)

D. 霊性プログラム：ワークショップ (自己発見から神へ) 終了

E. 上記の日程以外でも、個人で黙想をなさりたい方は、問い合わせして下さい。

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 担当者： トニー・ブロードニャック師 (メノール宣教会) と シスター が
霊的同伴者としてお手伝いいたします。

◎ 受付： 受付(チェックイン)は、いずれの場合も、初日の午後3時からです。

◎ 申込先： 郵送、または、Fax でお願ひします。

郵送： 〒520-0106 大津市唐崎 1丁目3-1 ノートルダム修道院

Fax： 077-579-3804

1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて下さい。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。但し、それ以前に満室になった場合は、次の機会をお願いすることがあります。

◎ 問い合わせ： 電話： 077-579-7580 または、

Eメール： nd-inori@mbr.nifty.com 「件名は黙想」でお願ひします。

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2007年10月20日(土)

— マリー・エウジェンヌ師とテレーズ —

(幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師帰天40周年にあたって)

* 次回の予定 11月17日(土) *

講話 伊従信子 ・ 片山はるひ

午後2時より 講話・祈り・分かち合い

午後5時半 ミサ(参加自由です)

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail jndv-jp@r2.dion.ne.jp

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

奥村一郎選集

Okumura Ichiro

全9巻

2007年3月刊行開始

オリエンス宗教研究所

定価各2,100円

(本体2,000円)

四六判・上製・平均240頁

深い信仰と豊かな霊性、

そして透徹した知性が織り成す

奥村神学の全貌。



祈りと思案の日々はときに私を新たな地平へと導く。カトリック修道者となつてなお続く禅との関わりや宗教対話の積み重ねが、やがて「関係の神学」として結実したことはその一つである。自己形成や修徳主義を基軸とする「個の霊性」の行き詰まりの中で、福音の原点である相互愛に基づき「関係の霊性」は日本文化とキリスト教など、その後の私の問題関心を深めてくれた。——著者による「刊行にあたって」より

奥村一郎 Okumura Ichiro ●カルメル会司祭

1923年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中川宋淵老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧問などを歴任。

奥村一郎選集 全9巻の構成

- 第1巻 慈悲と隣人愛
(解説)西村恵信
- 第2巻 多文化に生きる宗教
(解説)ヤン・ヴァン・ラフト
- 第3巻 日本の神学を求めて
(解説)小野寺功
- 第4巻 日本語とキリスト教
(解説)阿部伸麻呂
- 第5巻 現代人と宗教
(解説)鶴岡賀雄
- 第6巻 永遠のいのち
(解説)八木誠一
- 第7巻 カルメルの霊性
(解説)高園泰子
- 第8巻 神に向かう〈祈り〉
(解説)高橋重幸
- 第9巻 奉獻の道
(解説)宮本久雄

聖フランシスコ・ザビエルによる日本開教から四百五十年、途中数々の困難がありながらも、まかれた福音の種は今日まで生き続けています。この地の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索し続けた一人の日本人——奥村一郎。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集めたものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話におけるダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。あわせて、その柔軟な視点は二十一世紀の今、宗教対立や文化葛藤を乗り越え、寛容を求めるすべての人々への道標となることでしょう。その時と場所で与えられた役割を誠実に果たし続けた著者の足跡をまとめた本選集が、日本の教会と社会で長く受け継がれる財産となることを願ってやみません。

オリエンズ宗教研究所

Okumura Ichiro

全9巻の主な内容

- | | | |
|---------------|--|------------|
| 第1巻 慈悲と隣人愛 | カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における霊的修行 | 3月刊 |
| 第2巻 多文化に生きる宗教 | 大いなる賭——宗教対話／遠藤周作さんを偲ぶ／アジアにおけるカトリックの現代的課題 | |
| 第3巻 日本の神学を求めて | 日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい掟 | |
| 第4巻 日本語とキリスト教 | 日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳 | |
| 第5巻 現代人と宗教 | 現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／全人教育と真人教育 | |
| 第6巻 永遠のいのち | 嬰兒復帰／人間の栄光と悲惨／死を見つめる／十字架の秘義／人間と世界と神 | |
| 第7巻 カルメルの霊性 | アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレズと東洋的霊性 | 4月刊 |
| 第8巻 神に向かう〈祈り〉 | 考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈ることの意味 | |
| 第9巻 奉獻の道 | 清らかな矛盾／修道と世俗／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性 | |

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 Tel:03-3322-7601/Fax:03-3325-5322/jimu@oriens.or.jp http://www.oriens.or.jp

購入申込書

オリエンズ宗教研究所刊 奥村一郎選集 (全9巻) 各巻定価2,100円 (本体2,000円)		ご住所 〒	お電話	取扱書店
第 巻 書名	冊	お名前		
第 巻 書名	冊			
を購入します		4 6		配給元・日牛版

新刊紹介

◆ 「神はわたしのうちに、わたしは神のうちに」

(三位一体のエリザベット帰天百周年記念出版)

伊従信子著・聖母文庫・¥525

総頁196



◆ 「祈りの道」・「いのちの道」

写真と文 伊従信子・サンパウロ・¥840・総頁各48

日々の生活に潤いをもたらす、

珠玉の言葉と写真を集めた2冊



● 「三位一体のエリザベット」

— 神は私のうちに 私は神のうちに —

菊地多嘉子著・ドンボスコ・¥525

Sr.菊地多嘉子が、沈黙の生活の中からわきあがるエリザベットの靈性の美しさを記す。

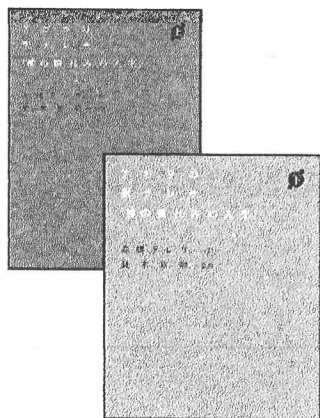
● 「神の憐れみの人生」(上・下)

監修 鈴木宣明

訳 高橋テレサ

聖母の騎士社・上下各巻 ¥840

カルメル会・アビラの聖テレサに関する新刊本。



投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

》投稿規程《

- * 締切り：原則的に毎月10まで
- * 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm
- * 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
- * E-mailでの投稿は、添付ファイルで、tokyo@carmel-monastery.jp宛にお願いいたします。
- * 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
- * 「諸所の企画」のコーナーについては、
 - ① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
 - ② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
 - ③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
 - ④ 連絡先等。
- * 寄稿連絡は、^{くのり}九里 彰神父宛にお願いいたします。

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会修道院
Tel (03) 3704-2171 Fax (03) 3704-1764

ホームページ

「霊性センターニュース」の「カルメル会の企画案内」の部分は、次のホームページでも御覧になれます。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>

霊性センターニュース製本風景



頁を集める人



九里神父様も一緒に



とじる人

毎月、900部～1000部、約50頁の
霊性センターニュースをボランティアの
皆さんと共に製本作業を行っています。

お手伝い下さいます方は、お声がけ下さい。

